

# 彦名通信

No. 155  
平成20年12月



## 全国高専プロコン 文部科学大臣賞受賞!



デモブースにて



プレゼン審査の様様



高専機構理事長より 文部科学大臣賞の授与

## 目次 CONTENTS

### イベント特集

- 高専プログラミングコンテスト ..... 2
- 高専ロボットコンテスト ..... 3
- 高専祭 ..... 4・5

### クラス便り

- 2年機械工学科・電気情報工学科 ..... 6
- 2年電子制御工学科・物質工学科・建築学科 ..... 7
- 3年機械工学科・電気情報工学科 ..... 8
- 3年電子制御工学科・物質工学科・建築学科 ..... 9

### クラブ便り

- 活動報告 ..... 10
- クラブ紹介 ..... 11

### 寮生会便り

- 寮行事紹介 ..... 11

### 研究活動

- 研究紹介 ..... 12

### 地域交流

- 公開講座・地域貢献活動 ..... 13

### トピックス

- トピックス ..... 14・15

### GP特集

- 校長より ..... 16
- 取組紹介 ..... 16
- 編集後記 ..... 16

# 全国高専第19回プログラミングコンテスト

## プロコン課題部門 文部科学大臣賞受賞について

指導教員 電子制御工学科 河野 清尊

まさに「青天の霹靂」でした。まったく期待せずに臨んだ大会でしたので、本当に思いもよらない文部科学大臣賞（併せて最優秀賞と情報処理学会若手奨励賞）の受賞でした。

今年のプロコン、全国高専第19回プログラミングコンテストは、福島県いわき市のいわき明星大学で10月11日（土）・12日（日）に行われました。今年のプロコンのテーマは「ゆとりを生み出すコンピュータ」で、電子制御工学科からは「BOOK・ON -新感覚ユーザーインターフェース本型入力装置-」という作品で、5D伊藤直美さん、5D渡邊竜二君、3D笠見康敏君、3D北村裕介君、3D角田一樹君のチームが応募し、予選を通過して本選に出場しました。

本を読む操作でパソコンのアプリケーションを動かすことができないか!?それがそもそもの出発点でした。それができれば、キーボードやマウスを使うことなくパソコンを操作できるので、操作性が向上してゆとりを生み出すことができるし、新たなコンピュータアプリケーションの創造につながるのではないかと考えました。

そのために、まず、画像処理を使って容易に認識することができ、しかも同時に複数の認識が可能な円形バーコード「サークルコード」を考案しました。「本型入力装置」は、白紙の本にこのサークルコードを印刷したもので、パソコンディスプレイ上部に取り付けたUSBカメラから撮影してサークルコードを読み取ることにより、本の動きに応じてアプリケーションを動かそうというものです。

プロコン本選には、「本型入力装置」を使った画像ビューアと動画ビューア、さらに、サークルコードをカードに応用した神経衰弱ゲームを開発して臨みました。本選出発前には、システムを彦名小学校に持ち込み、児童のみなさんに使ってもらい良い感触を得ることができました。また、本校では校内発表会を開催していただき、教職員のみなさんの前で事前に発表練習を行うことができました。

いま振り返ると、勝因は2つあったように思います。それは「チームワーク」と「継続」です。エントリーした5人がプレゼンテーション審査、デモンストレーション審査、マニュアル審査でそれぞれの役割を果たしたことはもちろんですが、河野研究室の専攻科生、村田大介君と吉岡慎二君のアイデア出しからプログラム作成までのフル回転のサポートが大きかったように思います。また、1Dの3名（廣池颯人君、廣江翼君、野口大輔君）も手伝いに来てくれました。彼ら全員のチームワークの勝利だったと思います。もう一つは「継続は力なり」ということです。私自身、第12回鶴岡大会からプロコンに8年連続で出場し、その間に培った経験と得た人脈、蓄積したソフトウェア資産が大きき力になったように思います。

今回のプロコンでは、予想以上の高い評価と可能性を指摘していただきました。今後、このアイデアと可能性を大きな木に育て上げたいと思っています。現実の本（あるいは雑誌等）とコンピュータとをリンクさせることにより、新たなアプリケーションが創造できるのではないかと考えています。また、キーボードやマウスに代わる入力インターフェースとしての使い方も提案できると考えています。

これまで支えてくださった教職員のみなさん、本当にありがとうございました。また、毎年、製作費の援助をいただいている米子高専振興協会の会員企業の方々にもこの場をお借りしてお礼申し上げます。今後ともみなさんのプロコンへのご理解とご支援を宜しくお願いします。



表彰式後の記念撮影

これは力なり」ということです。私自身、第12回鶴岡大会からプロコンに8年連続で出場し、その間に培った経験と得た人脈、蓄積したソフトウェア資産が大きき力になったように思います。今回のプロコンでは、予想以上の高い評価と可能性を指摘していただきました。今後、このアイデアと可能性を大きな木に育て上げたいと思っています。現実の本（あるいは雑誌等）とコンピュータとをリンクさせることにより、新たなアプリケーションが創造できるのではないかと考えています。また、キーボードやマウスに代わる入力インターフェースとしての使い方も提案できると考えています。

## プロコンに参加して

5D 伊藤 直美

初めてプロコンに参加して、緊張しましたが無事に終わることができて一安心しています。私は他のブースを回っていないし、プレゼンも初めの4つを聞いたぐらいで、後はほとんど自分のブースに立っていました。プレゼンを聞いて、想像していたよりもレベルが低くて驚いたのが正直な感想でした。それでも、パンフレットやパネルを見て興味を持てるものはあったし、その中でまさか自分たちが文部科学大臣賞を取れるとは思っていませんでした。これも先輩や後輩のおかげだと思います。

## プロコンに参加して

5D 渡邊 竜二

初めての出場でしたが、思った以上に楽しかったです。特に、他高専の作品のデモやプレゼンを見て、こんな発想もあるのだな、といった新しい発見をできたことが楽しかったです。文部科学大臣賞をいただきましたが、先輩・後輩のおかげなので正直あまり喜ぶことはできませんでした。プレゼンについては、パワーポイントの作成や発表練習、校内発表など頑張ってきたので、本番で一番良いプレゼンができたのではないかと思います。



デモブースの様子



本型入力装置と画像ビューア

全国大会	平成20年10月11日(土)、12日(日) いわき明星大学 (福島県いわき市)	
出場部門	課題部門 テーマ: ゆとりを生み出すコンピュータ	競技部門: テーマ:フラッと収集車
作品名	BOOK・ON-新感覚ユーザーインターフェース本型入力装置-	午後の鰻
参加学生	5D伊藤直美、5D渡邊竜二 3D笠見康敏、3D北村裕介 3D角田一樹	3D左久間一幸、3M湊崎拓也 3E澤下 陽
指導教員	河野清尊	倉田久靖
結果	最優秀賞(文部科学大臣賞)受賞 大会会場での機器不具合のため、後日オンラインにて再試合	

# 高専ロボットコンテスト2008

## 高専ロボコン2008結果報告

指導教員 電子制御工学科 加納 尚之

今年のD科ロボコンチームは、4年生と3年生からなるチームでした。4年生は全員が初挑戦で、3年生は経験者ではあるものの、やはり経験不足は否めません。年齢と経験が逆転している状況でしたので、まずはチームの融和を図りながら技術を身につけることを目的に、D科独自のプチ・ロボコン大会を計画しました。2班に分けラジコンカーを製作し課題をこなしながらゴールを目指すという競技内容でした。お互いにコミュニケーションを重ねながら製作したロボットは、彼らのその時の実力を考えれば立派なものだったと思いますが、融和という点ではまだまだでした。今年のロボコンは2足歩行という課題が課せられ大変難しいものでした。しかし、アイデアを戦わせ、実際に製作を進める内に、自然と融和がはかれたように思います。夏休みも返上で取り組みました。電気回路から煙が上がり、ロボットが転倒するなど、たくさんの困難を克服していく彼らの姿は、非常に頼もしく立派でした。その甲斐あって中国電力様から特別賞（エネルギー賞）を頂き、彼らの努力が報われました。ロボコンに賭ける彼らの情熱と努力に敬意を払いたいと思います。



## ロボコン

4D 大久保 敦史

今年は時間が過ぎるのがとても早かったように感じました。と言うのも5月からロボコン中国大会があった10月までの約半年間、ロボコンに費やしていたからです。

最初の頃に本年度のテーマの歩行について自分たちの作りたいロボットの方向性を決めた後、製作に取り掛かりました。しかし、その製作の過程で色々な問題が発生してきました。機械的な問題では何かトラブルができ、それを直すとまた次の問題が出てくるなどがありました。大会が近づくにつれ問題を解決するために夜遅くまで残るようになりました。また、部品を注文してもなかなか届かないということも経験しました。



大会の結果では1回戦で負けてしまったのですが、このような体験ができ、いい勉強ができました。

競技課題	ROBO-EVOLUTION (生命大進化)	
中国地区大会	平成20年10月26日(日) 津山市久米総合文化運動公園体育館	
ロボット名	とりたま	Love it!!(ラビット)
参加学生	5M山根淳史、5M山脇奈都子 4M米澤佑一、3M笹間あかり 3M西林郁弥、3M太田拓巳 3M藤本滉太郎、2M近藤利樹 2M篠原篤広、2M中川拓実 2M前原誠一、1M松尾英嵩 1M桑本彰文、1M對馬伸幸	4D大久保敦史、4D中原生就 4D河上悠也、4D荒木信洋 4Dヴォン、4D田淵久敏 4D田中侑己、3D伊藤夏織 3D小松紀由、3D砂川直哉 3D南家康晴、3D山脇 怜
結果	中国地区大会1回戦敗退	中国地区大会1回戦敗退 (中国電力より特別賞受賞)



## 大会報告

指導教員 機械工学科 権田 岳

10月26日に岡山県津山市久米総合文化運動公園体育館にて高専ロボコン2008中国地区大会が開催され、機械工学科からは「とりたま」と名付けたロボットで大会に出場しました。本年度のロボコンテーマは、「ROBO-EVOLUTION 生命大進化」というもので、課題として多足歩行と二足歩行の「歩行」への挑戦がその最重要課題でした。過去のロボコンにおいて、従来から多用されてきたタイヤ、クローラーによるロボットの移動が全て禁じられ、まずは多足歩行によるロボットがパイロンの回りを一周し、高さ200mmのハードルをクリアして、その後、二足歩行のロボットへと変身を遂げ、直線もしくはスラローム歩行をしてゴールを目指すというものでした。

本年度は、ロボットに歩行動作・変身動作をさせるなどの高い難易度が要求され、機械工学科の学生達は授業期間中の放課後および夏休みを返上して製作に没頭したものの、結果としては初戦敗退となりました。最後になりましたが、応援していただきました保護者の皆様、卒業生の皆様、本校教職員の方々には、この場をお借りして、厚くお礼申し上げます。来年度は、最高の結果を報告できるよう、頑張りたく思います。



# 第45回 高専祭「lim k」 k→∞

## 高専祭を終えて

高専祭実行委員長 4A 伊田 翔一

半年前に準備を始め、多くの人に助けをもらい、米子中を走り回り、何度も何度も話し合い高専祭を無事終えることができました。

今となっては一瞬の出来事のように感じます。僕は学生みんなに楽しんでもらうのはもちろん、特に今年で最後の高専祭になる5年生のために頑張ってきました。

高専祭を終えてから先輩たちは「最高の高専祭だった」「お前みたいな後輩を持ってよかった」「ありがとう」と僕らに泣きながら言ってくれました。

たくさんの人が高専祭を楽しかったと言ってくれるのを聞くと僕らがやってきたことの大きさを改めて実感します。学生会で遅くまで残っても、徹夜しても何の見返りもありません。ですが、一つの目標のために協力しあった事、またみんなの思い出の一部にこの高専祭を残せたことは僕らの大切な宝物になりました。

僕たちに力を貸して下さった学校関係者・各企画の責任者のみなさん、そして支えてくれた家族や友達の優しさに本当に感謝しています。

本当にありがとうございました。

## 宝探し〜トレジャーハンター平澤〜

1E 松永 光太郎

放課後の準備にも参加して、目標の物を作り上げていく事が楽しかった。作りながら皆で、客が来ないんじゃないかと心配したり。当日の行列を見たら、頑張った甲斐があったなど、深く思ったのでした。最終的には、売り上げとか気にならなくなって楽しめたから、別に赤字だったとしてもそれはそれでいいや!と途中で思った。

前日準備の時、完成しないんじゃないかってぐらい進み具合が悪かった。そこからが驚き。「やばい」っていうのは皆が分かってたからか、みるみるうちに迷路が出来上がっていく。そういう時に本気が出るんだなあと感じさせられ、とにかく楽しい高専祭でした。

### 1-E宝探し 〜トレジャーハンター平澤〜

【トレジャーポイント】  
3階 3号室 5-10  
【入場料】  
小学生以下 100円  
中学生以上 200円



君はかの有名なトレジャーハンター平澤をまっているか？  
あるときは火山へ……、あるときは雪山へ……  
そして長い旅路を踏んでついに高専へ上陸する。  
しかしそれ以降、彼は行方がわからなくなってしまう……  
一俵このフィールドに何が待ち受けているのだろうか……  
そして、彼は何を探していたのであろうか……

**豪華景品が君をまっている！！**

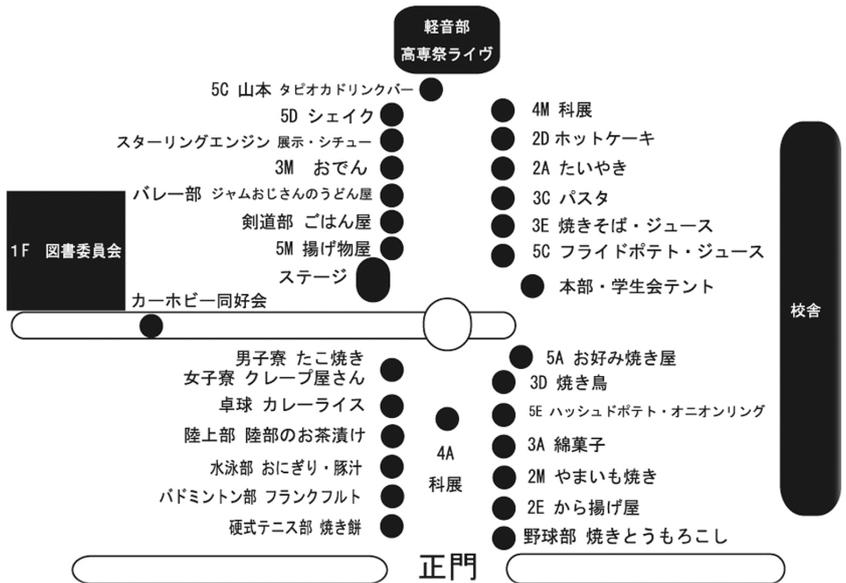
学生会  
総長



剣道部 ごはん屋



吹奏楽部



4M科展 ウインドカー



4E科展 イルミネーション



4D科展 ロボコン

# ラスト・揚げ物

5M 松田 憂生

今年の高専祭で5Mは2年前に続き今年も「揚げ物」で攻めました。2年前の揚げ物屋では竜田揚げしか揚げませんでしたが、今年は色々な種類のものを揚げました。まさにグレードアップして帰ってきました。しかし、揚げ物の種類を増やしたものの、揚げ物によって油の温度、揚げる時間などが違うので四苦八苦しりましたが、クラスみんなの協力のおかげでなんとかこのピンチを乗り越えました。最終的に竜田揚げ、コロケ、揚げたこ焼きという強力な3トップを形成し、無事成功を収めることが出来ました。最後に協力してくれたクラスみんな、本当にありがとうございました！



ステージ企画



陸上部 陸部のお茶漬



ロボコン操作体験



カーホビー同好会

校舎4階催し	お化け屋敷 (1M)	お化け屋敷 (1A)				
校舎3階催し	宝探し (1E)	縁日 (1C)	映画上映 (1D)	迷路 (2C)	綿菓子 (3A)	放送部上映会
校舎2階催し	茶・華道部 お茶席・花の展示	柔道部 スイートポテト	文芸部 作品展示	美術同好会 展示・CAFE	漫画研究会 展示・部誌配布	
	写真展示 (5M)	模型展示 (4D)	たまごかけごはん (5E)	4E科展	4D科展	
校舎1階催し	4C科展					



模型展示



ライブ



男子寮 たこ焼き



ステージ企画



4C科展 化学実験体験



4A科展 光オブジェ (昼間)



4A科展 光オブジェ (夜間)

2年



学年主任 一般科目  
原 豊 二

2年生は10月16日から17日にかけて、研修旅行に行ってきました。学年共通で見学したのは、石見銀山と三瓶小豆原埋没林公園です。特に、昨年世界遺産に登録された石見銀山では、ガイドの説明とともに20人ほどのグループで学び、また歩き回りました。銀山中心部では環境問題への配慮から、車での移動は禁止されていて、徒歩で移動しなくてはならないからです。「間歩」と呼ばれる発掘のための岩を切り通した通路に入ると、ひんやりとして流した汗もすがすがしく感じました。

2年生全員で泊まった宿泊場所は、三瓶山の麓にある「国立三瓶青少年交流の家」です。ここは単なる宿泊施設ではなく、様々な教育プログラムが用意されている所です。ここでは、クラスごとに分かれて活動しました。サイクリング、ハイキング、ダッチ・オープン料理、バーベキューと、行うことは違いますが、どれも大自然の中でクラスメートたちとともに活動するものでした。それぞれのクラスの中では、また新たな人間関係が作られたのではないのでしょうか。

■在籍学生数		( ) 女子の内数				
2M	2E	2D	2C	2A	計	
42(1)	47(2)	38(1)	43(19)	38(12)	208(35)	

機械工学科



校外研修旅行を終えて 牧 純也

10月16日から17日にかけて僕達2年生は三瓶山に宿泊研修に行きました。機械工学科は1日目にサイクリングをして三瓶の自然に触れながらクラスの親

睦を深めました。2日目には石見銀山遺跡と埋没林公園を訪れ、昔の人々の生活などについて学びました。また、17日の朝、僕は青年の家に宿泊されている方々の前でスピーチをしました。緊張しましたが、良い経験になったと思っています。今回の研修で学んだことを、今後活かせるように頑張っていきたいです。

高専祭での出し物について 前原 誠一  
田邊 優夢

今年の2Mは高専祭で山芋焼きをしました。山芋焼きとは、ゆでたジャガイモ、すりおろした山芋、卵と塩を混ぜて焼くだけの実にシンプルな料理です。今回は、初めての食品に関する出し物で、保健所に出す書類など、昨年よりも準備が大変で四苦八苦しました。準備を手伝ってくれた先生、2日間ずっと協力してくれたクラスの皆と山芋焼きを買って下さった方々、本当にありがとうございました。

電気情報工学科



研修旅行について 日下部裕一

僕は、研修旅行の2日間で世界遺産の素晴らしさや、友達の大切さを体感することができました。1日目の石見銀山では、銀を採取するためには、間歩と呼ばれる狭い坑道を掘り、更に間歩の中に新鮮な空気を送ることと排水目的の間歩をつくっていたという跡がありました。石見銀山は、機械がない時代

にこうした苦勞をしながら銀を採取していた昔の人の努力の結晶だなと思いました。2日目のハイキングでは、晴天だったので太平山頂上から眺める大自然は最高でした。下山後のバーベキューは、友達と協力して食材を調理したり、薪を燃やしたりと、貴重な体験ができました。

この2日間で普段の学校生活では味わえない体験をすることができて良かったです。

高専祭について 矢倉 浩太

高専祭の実行委員として、高専祭クラス企画を担当し、協力し合うことの大切さを学びました。2Eは唐揚げを売り、みんなが自分の担当以外の時間でも積極的に協力し、お客さんに呼びかけをしたおかげで、予想以上に多くの人達に買っていただけました。

高専祭の片付けも全員まとまって協力できたことがとても良かったです。来年もみんなが協力しあえるような高専祭にしたいと思います。

## 電子制御工学科



## 研修旅行をおえて

田岡 大輔

1日目は、ハイキングを行った。自然いっぱいの草原で、走りまわり、草まみれになり口の中にまで、草が入った人もいた。皆で笑い、大騒ぎすることが出来た。

2日目は石見銀山遺跡へ、生い茂る草花、ゆるや

かに流れる川など、ここにも自然があった。銀を取るため掘った穴、前後左右だけでなく、上にも掘られており、先は真っ暗でなにも見えなかった。世界遺産とはいえ、山は山だろうと現地に来るまでは思っていたが、実際に来てみると、その歴史観のある姿に圧倒された。

この2日間、自然の良さ、歴史の偉大さなどに気付けた。また、集団行動ということで、友人の行動にいらつくこともあったが、それ以上に、皆と笑いあえ、楽しむことができた。

## 高専祭をおえて

西川 尚貴

僕達、2Dは、ホットケーキ屋を出店しました。試行錯誤した結果、何か工夫をしようと言う事で、たこ焼き器でホットケーキを焼き、たこ焼き風ホットケーキを作る事になり、結果、大盛況に終わりました。初めての出店ということもあり最初は分からないことばかりで苦戦しましたが、クラス全体でやり遂げる事ができ良かったです。来年は、さらにクラスの団結力を高め、より良い企画を考えていきたい。

## 物質工学科



## 研修旅行

竹中 慎

研修旅行1日目は石見銀山に行った。特に採掘の為に人力で掘られた「間歩」と呼ばれる坑道を歩いたことが印象に残った。間歩の中は暗く、意外と距離があった。実際に間歩を歩いてみて、照明や技術

の無い時代に人力でこれだけの間歩が掘られたことに驚かされた。

2日目はダッチオープンをした。初め、火をおこすのに苦戦したが、火がおきた後は煙が目にしめるのが辛かった。苦労して作った料理はおいしかった。

この2日間は貴重な体験をすることができたと思う。この体験をこれからは活かしていきたい。

## ダッチオープン

清水 香穂

三瓶山の研修旅行、2日目にクラス全員でダッチオープンをしました。私は、野外炊飯はもう何年もしていませんでした。なので、楽しみでしたが、少し不安もありました。メニューは鳥の丸焼きと豚汁と白いご飯でした。鳥の丸焼きの時にダッチオープンを使いました。鳥は、焼く前、生々しくて、「かわいそう」になりました。でも、焼くと「おいしそう」になりました。豚汁も白いご飯も全部おいしくできました。みんなで協力しながら料理できたので、親睦が深まりよかったです。

## 建築学科



## 校外研修の感想

中嶋 健太

世界遺産の石見銀山には、初めて行きました。印象的だったのは、トンネルみたいな坑道です。埋没林公園では、地下に埋まっていた木を見たりして、

建築学科なので興味を持ちつつ見る事ができました。三瓶では携帯が圏外で使えませんでした、それなりに楽しむことができました。2日目のハイキングやバーベキューは、火をおこすのに苦労したり色々あったけど、協力してできました。三瓶の研修が楽しいものになってよかったです。

## 校外研修の感想

山崎 基弘

僕は、今回の校外研修旅行で他の学科の人達とも交流することができ、とても有意義な時間をすごすことができました。石見銀山では坑道の中に入ることができ、とても貴重な体験をすることができました。また埋没林では縄文時代の木を見ることができ、タイムスリップしたような気分になりました。青年の家ではみんなでバスケットなどスポーツをしたり、星を見たりして交流を深めることができ、最終日には野外炊飯やハイキングを楽しみました。とてもよかったです。

3年



学年主任 機械工学科  
矢 壁 正 樹

10月15日～17日の2泊3日の日程で工場見学旅行が行われました。各科の旅行日程は紙面の都合で省略させていただきますが、山陽・関西方面で各科4社の工場を見学させていただきました。地元では見ることができない大企業・大工場の先端設備およびそこで働く人の姿を見学することができ、学生にとって大変良い経験となりました。本校卒業生が対応してくれた企業もあり、勉学へのモチベーションがUPしたと思います。これをきっかけに高学年への自覚と実力を備える事を期待しております。また、後期より教育GPによる新科目「環境教育」がスタートし、中海船上視察および中海・環境に関する講演会の聴講など全学科一斉の行事が例年より多くなりました。新科目「環境教育」では全学科混成の班割りを行い、一班あたり学生6～8名のグループに一名の教員が担当して、グループ学習を行っています。担当教員も初めての科目でなれない面もありますが、年度末には成果発表が行えるようにどのグループも積極的に取り組んでいます。

■在籍学生数		( ) 女子の内数		【 】 留学生の内数	
3M	3E	3D	3C	3A	計
40(2)【1】	41(2)【1】	37(6)	42(16)	45(22)	205(48)【2】

機械工学科



工場見学旅行に参加して 足立 一馬

見学したJFEスチール(株)西日本製鉄所はスケールが大きく感動しっぱなしでした。特に圧延工場では赤く光った巨大な鉄板が厚さ数センチにまで

圧延される様は圧巻であった。三菱重工業(株)神戸造船所では船用エンジンの大きさにびっくりした。

最後の質疑応答の時に、社会に出て大切なこととして、1. 素早い判断力、2. 柔軟な発想、3. 失敗をおそれない行動力、の3つを教えて頂き、自分が社会に出るまで覚えておきたいと思いました。

工場見学旅行に参加して 生田 晃一

見学したどの工場もとても大きいことに驚きました。また、工場内がきれいで整理整頓されていることに驚きました。工場は汚いというイメージを持っていたので考えを改めさせられました。実際に工場で働いておられる人の姿を見て、将来どんなふうになるのかなど、いろいろ考えることができたし、仕事をする事が大変だということも少しだけわかったような気がします。とても勉強になりました。

電気情報工学科



工場見学に行つて 舛田 大地

工場見学旅行では色々な事を学びました。中でも心に残ったのはダイキン工業株式会社の社員の方の話です。

今のうちに何らかの資格を取得しておいた方がよ

いか、といった学生の質問に対して、「資格は特に重視していない。そういうことよりも、製造しているものへの興味や、仕事へのやる気など、気持ちの部分大切にしている」といった返答でした。僕は資格を取得したいと思っていますが、ダイキン工業の“気持ち”を大切にしようという方針に感銘し、考えさせられました。

工場見学旅行 内藤 翔太

工場見学で印象に残っているのは、どの会社も顧客のニーズに合わせて物作りをしているということ、運搬する人の吐く二酸化炭素までも削減しようという会社もあるなど地球環境に目を向けているところです。

4社を見学しましたが、将来あのような仕事をするようになるかもしれないと思うと、不安や期待が頭をよぎります。自分の進路の肥やしにして、今の自分は何をすべきかを考えていきたいと思いました。

## 電子制御工学科



## 工場見学旅行に行って 砂川 直哉

今回の旅行で4社の工場を見学し、実に多くのことを学ぶことができました。生産しているものやその方法も様々でしたが、どの社にも共通していたのは「より

良い製品を作る為には努力を惜しまない」と言う事でした。今回お世話になった4社の中に、もしかすると将来勤務することになる企業があるかもしれません。企業の力になる為にも、現在高専で学んでいることが大切だと改めて実感しました。今回貴重な機会を与えて下さった企業の皆様には、心より感謝いたします。

## 工場見学旅行で学んだこと 足立 愛美

今回の工場見学旅行は、今までにはない貴重な体験を沢山することができました。初めて知ったことや印象に残ったことを家族に話したらとても驚いていました。特に、サントリービール工場では従業員の制服がペットボトルのリサイクルによって作られているということや、大阪ガスでは敷地内に木を植えたり、清掃活動をするなど、環境問題に対する対策を沢山していることに心を動かされました。私も今回学んだ事をこれからの生活に生かしていけたらな、と思います。

## 物質工学科



## 工場見学旅行に行って 岩本 和夫

工場見学で私が印象に残ったのは東レでした。「化学による革新」の名の通り、様々な素材の開発がとても衝撃的でした。衣類、樹脂、医療製品までも開

発していきまさに私たちの生活を支えているのだと思いました。さらに、環境に対する思いがとても素晴らしく、研修制度などがしっかりしていて、とても魅力を感じたのは私だけではないと思います。常に努力をし続ける東レの姿勢をお手本に毎日を過ごしていきたいと思っています。

## 3Cの高専祭 西井ひとみ

去年のクラスのバザーに殆ど参加できなかった事もあり、高専祭がスタートしてもうまく実感が湧かない假、当日を迎えた私だったが、自分から進んで動こうとする友達の姿に圧倒され、その明るい表情に胸が温くなるのを感じた。そこには、面倒だと愚痴を零す人は誰一人として居なかった。強制されて動くのではなく、みんなで一緒にやろうという雰囲気は、今まで何気なく一緒にいたと思っていたクラスが、何気なく繋げていった、確かな信頼の上に成り立っているように思った。

## 建築学科



## 工場見学旅行を終えて 小林 翔平

工場見学旅行は僕の将来を見つめるきっかけとなり、多くを学ぶものでした。

積水ハウス納得工房では、階段・段差・キッチン等を見て、製図などの参考になりました。僕は将来

現場で仕事をしたいと思っているので、天満計画新築工事の実際の現場を見たことは一番印象に残り、将来が楽しみになりました。人と防災未来センター、北淡町震災記念公園では、震災の恐ろしさと建築の重要性を改めて考えさせられました。

見学させていただき方々に感謝し、建築の勉強を頑張っていきたいと思っています。

## 高専祭を終えて 須山あゆみ

今回の高専祭、私達3年建築科は去年と同じく綿菓子を販売しました。去年は驚くほど好評で予想以上の売り上げがありとてもうれしかったのですが、今回は場所が屋内で、しかも3階だったので去年よりは売れないだろうとうすうす感じていました。でも、生産が追いつかないほど好評でとても驚きました。途中で機械が壊れてしまい、パニックになったこともありましたが、色んな意味でクラスの団結力が深まり、とても楽しい高専祭だったと思います。

## クラブ 便り

### ラグビー部 中国地区高専体育大会(冬季大会)Bパート優勝

前主将 5A 龜尾 旭

時が経つのは早く主将を始めて1年が経ちました。米子に来て1年で主将、夜遅くまで遠征の日程や手続き、練習日程、内容、選手のポジション決め、選手状態はどうかなど様々なことをこなしたりと大変でした。



しかし全て1人でこなしてきたわけではありません。事務雑務をこなしてくれたマネージャー。忙しい中毎日顔を出してくれ本当にお世話になった監督、コーチ。学校の課題に追われ部活に出れない時チームを引っ張ってくれた副将。勝つか負けるかの瀬戸際で苦役を乗り越えてきた仲間達。辛いながらも必死についてきた後輩。そうやって様々な人達のおかげで主将をやってきました。

個性溢れるこのチームをまとめるのは大変で苦しいときもありましたが、この学校にきてラグビーが出来て主将をやれて本当に良かったです。5年は自分達の道を後輩達に見せることができると思います。だからこのチームは年を追う毎に強くなっていくと思います。これからも後輩達の応援よろしくをお願いします。

### ヨット部 国体に参加して

3C 木下 瑞

まず、たくさんの方に感謝の気持ちを伝えたいです。結果には悔しさも残るけれど、入賞できたのは監督、コーチ、サポートしてくれた総合ペアや1年生のおかげです。また、1、2年の時に1人乗りの指導をしてくださったOBの方々にもとても感謝しています。そして一番にペアと一緒に戦った山本さんに感謝しています。プレッシャーや不安、さらにサポートしてくれる1年生に何もあげられない自分が嫌で部活が苦痛になり辞めたいとまで考えていた時期もありました。つらかったけれど2人だったから乗り越えることができ、つらさを経験した分「勝ちたい！諦めたくない！」と2人で強く思いました。それが1レース目の16位を挽回する2、3レース目につながり6位に入賞することができました。苦しかった分とても嬉しかったです。



今後は、これから活躍する1年生のサポートをしつつ、さらに上を目指して頑張っていきたいです。

### 合唱同好会 おめでとう！中国大会銅賞受賞！

顧問 一般科目 酒井 康宏

去る9月20日(土)第47回中国合唱コンクールが鳥根県松江市で開催され、鳥取県大会を勝ち抜いた米子高専合唱同好会が出場しました。米子高専は鳥取大学と同様、大学の部に出場し、見事銅賞に輝きました。発表は少人数ながら声のバランスがまあまあ取れていたと思います。

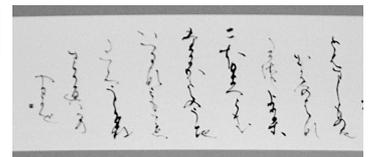


全国大会には出場できませんでしたが、持ち前の明るい声は、実験実習やインターンシップという工学系学部が抱えた大変忙しい行事の中、よくあそこまで磨かれたことと、忙しい行事を縫ってコンクールに出場した意義は大変大きいと審査員から褒めていただきました。さらに音楽性を高め、心に響くハーモニーを目指して頑張りたいと思います。関係の教職員の皆様様に感謝いたします(写真は鳥取大会のもので：指揮者常松先生、顧問と団員一同)。

### 書道同好会 「第13回全日本高校・大学生書道展」の入賞

顧問 一般科目 原 豊二

このたび、5Mの石橋利恵子さんが「第13回全日本高校・大学生書道展」の「展賞」に、4Dの伊藤夕佳さんが「優秀賞」に選ばれました。鳥取県内で「展賞」に選ばれたのは石橋さんだけです。また、「優秀賞」に選ばれたのは県内で伊藤さんを含めて3人でした。「展賞」をとった石橋さんの作品は、平安時代の古筆「関戸本古今和歌集」を手本にして、和歌二首を「変体仮名(連綿体の古風な仮名)」で書いたものです。入賞については、日々努力してきた成果が表れたのだと思います。石橋さん、そして伊藤さん、おめでとう！これからも素敵な作品を書いてください。



石橋利恵子さんの入賞作品

### 陸上競技部 シーズン後半も中国ブロック、そして全国大会に出場！

顧問 一般科目 南 雅樹

#### ●第51回鳥取県高等学校新人陸上競技大会【9/19-21：鳥取市布勢】

前期末試験の最中の大会という状況にも関わらず、2D古儀が先輩である4D遠藤に続いて県新人の100mを見事に制した。鳥取県代表で出場した中国大会は、大分国体優勝者(広島県)やインターハイ出場者(岡山県)が出場するハイレベルな戦いのため、惜しくも決勝進出を果たせなかった。しかし、次年度のインターハイ出場に向けて良い経験となった。

#### ●2008日本ジュニア・ユース陸上競技選手権大会【10/17-19：鳥取市布勢】

4D遠藤が男子100mの種目で、6月の日本学生に続き、今年2度目の全国大会出場を果たした。18歳以上20歳未満の年代の日本選手権と呼ばれる大会であり、予選通過はならなかったが、腰痛が完治していない状況での10秒7台の記録のタイムは、回復の兆しが見られた。

男子 高校	決勝	GR10.96
1 171 古儀 和樹	米子高専	11.21
2 303 神内 八穂	八穂	11.22
3 110 木村 達也	倉吉東	11.32
4 208 若松 森兵衛	鳥取西	11.39
5 191 小原 耕太	鳥取工	11.43
6 302 田村 亮太	八穂	11.51
7 98 池口 昇博	鳥取南	11.52
7 363 堀本 将平	鳥取豊	11.52

## クラブ紹介 卓球部

顧問 電子制御工学科 河野 清尊

卓球部の部員数は本校のクラブ・同好会の中でも多い方で、この5年間は33人、45人、47人、42人、39人と推移しています。部員数が多いということは、どうしても一人一人の目指す目標がバラバラになりがちで、部をいかにうまくまとめてゆくか、それが大きな課題でした。

米子高専に赴任して19年目。十数年間の試行錯誤の結果、たどり着いた答えは、チームとして高い目標を掲げ、部員一人一人に部活動の目的を理解させ、その達成に向けて各自がその役割をしっかりと果たすということでした。目標は「団体で全国高専大会優勝&インターハイ出場」、目的は「部活動を通して人間的に成長すること」です。

不思議なもので、勝ちにこだわっていた頃はなかなか勝てませんでした。学生成長を第一に考えるようになってからは少しずつですが勝てるようになりました。これからも、卓球の大好きな学生を、卒業後も生涯スポーツとして卓球を続けてくれる学生を育てたいと思っています。そして、「この仲間と一緒に卓球ができて良かった」と誇りを持って巣立っていける、そんな部であり続けたいと思っています。



平成20年度中国地区高専体育大会  
美作アリーナにて

## クラブ紹介 文芸部

顧問 一般科目 平澤 信一

文芸部は、年3冊程度の文芸誌を発行していますが、今年度の中国地区高専文芸コンクールでは、「laundry#1」が、部誌部門の第3位に入賞しました。ここに、高専祭で展示した作品の中から秀作2篇を紹介させていただきます。



《時が創るこの世界/何かをする/過去/現在/未来/その場面を/何千何万/無限に繰り返して/僕はいる/例えばそれが/どんな些細なことであったとしても/何かをしたことに変わりはない/あとは時が流れてさえくれれば//僕はここに居続けられる》(青葉「イルワケ」)

《人形がワルツを踊る夜に/キルトがオーロラに変わる時に/羊飼いが星座を物語るように/林檎は蛇に愛を告げる//ワルツが人形を踊らせる夜に/オーロラがキルトに変わる時に/星座が羊飼いに物語られるように/愛は蛇にキスをする//人形がワルツを踊らない夜に/キルトがオーロラに変わらない時に/羊飼いが星座を物語るように/蛇は林檎に別れを告げる》(桐島芳一「蛇林檎」)

## 寮生会便り

### われもこうまつり

3A 砂場 雄一朗

今年も10月19日に米子市彦名町の吾亦紅で「第13回われもこうまつり」が開催されました。今回は焼きそばや、炊き込みごはん、豚汁などが出店され、さらには毎年恒例となったカラオケ大会なども行われ、大変盛り上がりしました。炊き込みごはんや豚汁を食べましたが、とても美味しかったです。また、紙すき体験が行われ、沢山の人が楽しんでいました。男子寮の1年生も紙すきを体験しました。オリジナルのがきを作ることができて楽しそうでした。

僕たち米子高専の寮生も1年生を中心にボランティアとして参加しました。午前は女子寮生が各出店のお手伝い、午後は男子寮生がテントや机の後片付けのお手伝いをしました。僕も後片付けに参加しましたが、重いテントや机などを運んだので、力仕事では役に立てたと思います。



紙すき体験

### 「ありがとう」高専祭バザーより

3M 新 優志

「いらっしゃいませ～いらっしゃいませ～」と先輩の声が響く。テントの中では、1、2年生が慌ただしく働いている。そして僕は、いろんな所に目を配りながら、たこ焼きを焼いている。そんな男子寮は今年も、たこ焼きの販売を行いました。今年も大繁盛で、材料が足りなくなるなどの問題がありましたが、順調に売り上げて無事に高専祭を終えることができました。

高専祭成功の裏には、たくさんの人々の協力・援助がありました。寮役員の先輩方、頼りになる寮役員みんな、そして、たこ焼きを焼いてくれた1、2年生。僕は皆さんに頼ってばかりでした。人っていうのは、一人じゃダメだと改めて実感したし、人には信頼できる仲間と助け合いが必要だと思った高専祭でした。みんなありがとう！



### 高専祭について

1A 廣瀬 未佳

初めての高専祭で、しかも私は中学の時に文化祭がなかったので、かなり楽しみにしていました。私は寮生で、陸上部にも入っているので、寮のクレープ、部活のお茶漬、クラスのおけ屋敷と当番がたくさんあったので、他の学科の出し物をあまり見ることはできませんでした。それが残念でした。

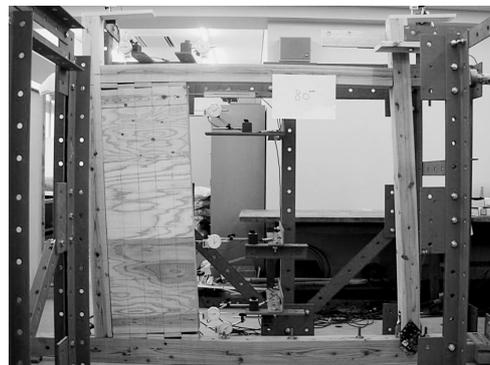
クレープは生地もカスタードも手作りで、高専祭の前日からみんなで力を合わせて作りました。かなりの量を作ったので、今思うとすごいなあと思います。当日の当番は焼きだめの他に、テントの方でクレープを巻く仕事もありました。すぐ生地がなくなってしまうので、寮食堂とテントの間を自転車でも何往復もしました。忙しい2日間でしたが、初めての高専祭、楽しかったです。



## 研究活動

### 研究紹介 建築学科 稲田 祐二 研究室

私の研究室では、建築物の構造に関する教育・研究活動を行っています。建築の構造設計 (Structural Design) は、建築空間を構築するためのベースとなるものであり、構築する空間のコンセプトを具現するものでなければなりません。この夏中国で行われたオリンピックのメインスタジアムとなった通称「鳥の巣」は、まさに建築の構造そのものが意匠として表現されたものといっているでしょう。さて、本研究室で現在取り組んでいる研究テーマは、この構造設計をキーワードに、①構造設計支援解析システムの開発、②新しい構造システムの開発の2テーマです。右の写真は、「既存住宅の新しい耐震補強工法の開発 (テーマ②)」を目指して専攻科生と5年生が取り組んでいる実験の様子です。



木質ブロックによる耐震補強効果に関する実験の様子

### 研究紹介 一般科目 加藤 博和 研究室

車社会・少子高齢社会にあって、既存の乗合バスによる公共交通システムの存続が困難な地域・自治体等における、持続可能な交通システムのあり方 (サービス提供) について調査研究を行っています。

実際のフィールド (現場) に立脚して、地域・事業者・行政と連携・協力しながら、実態把握 (アンケート、聞き取り調査 (写真1))、意見交換、試験運行等を行い、政策志向の検証を行うという方法をとっています。

これまでに、都市郊外団地における乗合タクシーの活性化 (写真2) や中山間地域における交通政策の策定などに取り組みました。

今後は、NPO等を含めた地域主体の交通システムに関する事例調査→一般化→他地域への応用等を行いたいと考えています。



▲写真1  
聞き取り調査の様子



▼写真2  
団地を走る乗合タクシー

## 国際協力

### JICAプロジェクトへの技術協力 建築学科 玉井 孝幸 研究室

国際協力機構 (通称、JICAと呼ばれています。) が公募している「草の根援助プロジェクト」に駒澤大学が提案した「南インドにおけるバイオトイレ建設」事業が採択され、この事業に玉井研究室が技術協力を行うことになりました。

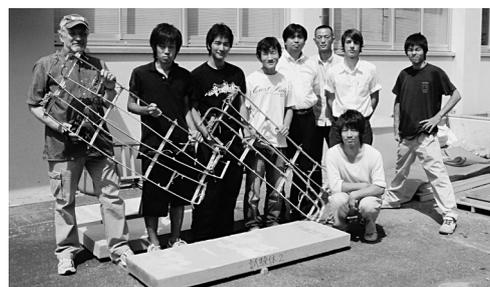
私達が行う技術協力は、南インドの貧困地域で、住民が安易・安価に手に入る材料で、自らバイオトイレを建設するための技術指導です。特徴は、鉄筋コンクリート造ではなく、鉄筋の代わりに竹を用いた「竹筋 (ちっきん) コンクリート造」で建設することです。これは駒澤大学が事前に現地で行った住民へのヒヤリングで「コンクリート製が良い」との意見が多かったこと、活動地域が海岸近辺でありパイロット工事では鉄がさびてしまったこと、鉄が高価であることなどから、竹筋コンクリート造となりました。



セメント袋8袋×25kg+学生?kgまで耐える竹筋コンクリート床板

研究室内の所属学生は、5年生が2名、4年生が4名です。全員で夏休み前の暑い盛りに放課後を利用して竹筋コンクリートの試験体を、汗をかきながら連日作成しました。その試験体は、夏休み後半のお盆明けに全員で載荷試験を行い、竹筋コンクリートの仕様を決めました。9月には実大竹筋コンクリート床板の試験体を製作し、10月には載荷実験を、JICAプロジェクトの関係者と共に公開実験を開催しました。結果は、竹筋コンクリート床板で515kgまで耐えるものを製作することができました。

今後は、さらに薄く、軽量化を図ります。また、来年2月には私と5年生2名とともにインドで材料の選定とパイロット工事を、8月には学生 (現在の4年生) 2名とともに行き、1週間程度技術指導を行います。



JICAプロジェクト関係者とともに

今後は、さらに薄く、軽量化を図ります。また、来年2月には私と5年生2名とともにインドで材料の選定とパイロット工事を、8月には学生 (現在の4年生) 2名とともに行き、1週間程度技術指導を行います。

「くらしの経済・法律講座」の開講

一般科目 加藤 博和

標記の講座は、本校と鳥取県生活環境部消費生活センターが連携し本校の授業科目「社会科学Ⅲ」として開講しているもので、今年度で2年目となります。

消費者トラブルに巻き込まれやすい若者や県民に対する消費者教育を目的としており、県民の方も受講生として来校され、学生と県民と一緒に学習するというスタイルをとっています。

本校学生は4年生36名が履修し、県民は70余名が受講登録していて毎回約50名の方が出席されています。既に消費生活センター所長、米子アザレア法律事務所の弁護士による法律分野の講義と演習を行い、今後、本校校長による著作権や、実務に携わっている外部講師を招いた税金、年金、金融などの経済分野の講義を予定しています。

昨年度に比べて県民の受講者が増加し、学生が押され気味ですが、「クーリングオフ制度はどういった場合に使えるのかよく分かった」という感想にあるように学生も消費者知識を修得しています。

県民の方にも好評で、「来年度も高専で開講してほしい」といった感想も寄せられています。



第1回講義(2008年10月6日)の様子

「高等専門学校等を活用した中小企業人材育成事業」実証講義がスタート

地域共同テクノセンター長 機械工学科 足立 新治

米子高専は、(財)鳥取県産業振興機構を管理法人として応募した平成20年度中小企業ものづくり人材育成事業(経済産業省公募事業)が採択されたことを受け、「品質管理講座(2コース)」及び「ユビコン時代の組み込みマイコン技術入門講座(3コース)」の実証講義をスタートしました。この事業は、高等専門学校の設備やノウハウを活用して、高専の教授や地域のベテラン技術者の協力により、中小企業のニーズに応じた講座と実習を一体的に行うカリキュラムを開発・実施して、中小企業の若手技術者の人材育成を支援するものです。

10月11日に行われた第一回目の講義は、山陰両県の企業から応募のあった技術者の内、この日受講する約40名が出席し開講式が行われました。小田副校長及び金田(財)鳥取県産業振興機構理事長の挨拶による開講式が行われた後、それぞれの講座の会場に分れて講義が行われました。



この実証講義は来年1月まで行われ、参加者は各講座コースごとに専門知識を修得することになっています。



弓ヶ浜小学校第25回音楽の夕べに出演

吹奏楽部顧問 建築学科 山田 祐司

11月16日(日)の午後、高専から3kmほど離れた弓ヶ浜小学校で開かれた表記の音楽会に出演しました。これは同校の児童たちによる学習発表会が午前中で終わった後、地域の演奏団体



による演奏を児童達に楽しんでもらうための催しです。米子高専吹奏楽部は平成16年から出演させていただき、今年は5回目になります。(高専以外の校外からの出演団体は社会人の大正琴、合唱のサークル、弓ヶ浜中学校吹奏楽部です)演奏した曲目は以下の通りです。シングシングシング、時代劇スペシャル、童謡メドレー、ゲゲゲ



の鬼太郎。200名ほどの児童、保護者の方々に聞いていただき、打楽器で参加した5年生部員には演奏後、聞いていた小学生からサインを求められるなど大変好評でした。

「米子こどもの科学教室」に参加しました

物質工学科 田中 晋

去る10月19日(日)に、小学生らを対象とした「米子こどもの科学教室」が弓ヶ浜公園にて開催され、全15テーマの実験コーナーのうち下記6テーマの実験を本校の教員らが出展しました。このイベントは、鳥取県西部地区の大学・高専・高校の教員らで構成された“わかとり科学技術育成会 西部支部”の主催によるもので、今回は米子高専の教員も企画運営で中心的な役割を果たしました。当日は、親子レクリエーション企画「米子市こども大会」が同所で同時開催されたこともあり、科学教室への参加者も途切れることが無いほど大盛況でした。実施に当たっては、本校のB&C同好会、物理実験同好会、建築学科、物質工学科などの学生さんに多数補助スタッフとして協力いただきました。ありがとうございました。

■米子高専から出展した実験テーマ

代表講師	実験テーマ
G科 越智信彰	「しんくう実験」「バランスのふしぎ」
C科 田中 晋	「人工イクラをつくろう」「シャボン玉の中に入ろう」
C科 谷藤尚貴	「液体ちっそを使った実験」
A科 松野一成	「飛び出す建築」



液体ちっそを使った実験に見入る子どもたち



しんくう実験を指導する補助学生

## 神楽鑑賞会

学生主事 一般科目 山藤 良治

特別行事期間の10月15日(水)午後、鳥取県江府町下蚊屋地区の明神社中の方々をお招きし、本科1・2年生が荒神神楽を鑑賞しました。下蚊屋地区の神楽は、岡山県の備中神楽の系譜を引き江戸時代に成立した伝統芸能として、鳥取県から無形民俗文化財に指定されています。最近では、国民文化祭や民俗芸能大会等さまざまな催しに出演し、2004年には大韓民国で開かれた国際民俗祭に参加するなど、海外公演の実績もあります。

この日は、荒神神楽成立の経緯の説明と演目の簡単な解説の後、「八重垣能」を演じていただきました。前段の軽妙な言い回しや滑稽な仕種は、学生と演者との世代間ギャップのせいか今ひとつ盛り上がりなかったようにも見えましたが、2頭の大蛇が煙幕を張って登場し火を吐きながらスサノオに襲いかかるクライマックスでは喚声上がり、荒々しく豪快な舞いの迫力に圧倒されて見入っていました。

なお、この鑑賞会は青少年に優れた文化芸術を供し豊かな感性を育むことを目的とした、文化庁の「学校への芸術家等派遣事業」から補助金の支給を受けました。



## 遠足

1学年主任 電子制御工学科 河野 清尊

10月15日(水)から17日(金)までの3日間の特別行事。1年生は、初日に高専祭の準備と荒神神楽の鑑賞を行い、2日目は球技大会で汗を流し、最終日の3日目に遠足に出掛けました。

機械工学科は松江に行き6時間の自由行動を楽しみ、電気情報工学科は蒜山高原センターで乗り物を楽しみ、電子制御工学科は鳥取砂丘で砂と戯れた後、北ジャスに寄って帰り、物質工学科は大山フィールドアスレチックで薪割り・火起こしから始まって飯盒炊爨でカレーを作って楽しみ、建築学科は鷺羽山ハイランドで学級委員のバンジージャンプをみんなまで応援しました。

行き先はそれぞれクラスで異なりましたが、天候



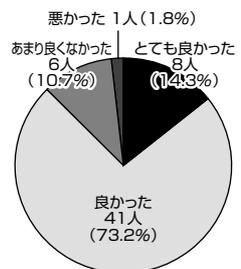
鳥取砂丘にて(1D)

に恵まれ、クラス内の親睦を深めることができ、有意義に秋の一日を過ごすことができました。

## 県内企業紹介フェアの開催

キャリア支援室長 電気情報工学科 松原 孝史

10月16日、本校と県庁がタイアップして県内企業紹介フェアを開催しました。会場には、本校講義室3室を充て、4年生と専攻科1年生約190名が、参加企業26社の会社説明を熱心に聞きました。就職活動の第一歩は情報収集からということと有用なイベントであったと思っています。参加学生のうち60名がアンケートに答えてくれ、図に示すように約88%が「参加して良かった」と書いています。良かった点の多くは、県内企業の情報が得られたことを挙げ、悪かった点としては、機械、電気、情報系の会社ばかりで物質、建築関連の会社が非常に少なかったことが挙がっていました。この点の改善が本イベント継続の鍵となることは自明です。ご協力いただいた本校教職員および県庁職員の皆様に厚くお礼申し上げます。



## とっとり産官学連携フェスティバル2008に参加

地域共同テクノセンター長 機械工学科 足立 新治

10月17日(金)、とりぎん文化会館で開催されました「とっとり産官学連携フェスティバル2008」に米子高専も参加しました。今年度は、「とっとり産業技術フェア2008」((財)鳥取県産業振興機構主催)と同時開催となり、鳥取県内の産業界、自治体、教育機関等が一同に介し、産官学の研究成果や技術発表を行うもので、毎年開催されているイベントです。

本校からは、副校長が米子高専の概要説明とシーズ発表を行った他、各教員が取り組んでいる研究や鳥取県との環境学術研究振興事業において取り組んでいる研究事例など18件のポスターセッションを行いました。また、会場の一隅に設けられたPRコーナーには学校紹介用のポスターパネルを展示し本校のPRも行いました。



ポスターセッションの様子

## 第24回中国地区高専英語弁論大会に参加

一般科目 大原 啓道

上記大会が広島商船高専の主管で、11月14日～15日の2日間、竹原市の「ホテル大広苑」にて開催されました。本校より、「暗唱の部」に2C安部真利子さん、1C糸ひとみさん、「スピーチの部」に5A山本祥子さん、1A船越杏子さんの4名が参加しました。そして、山本祥子さんが2位入賞の榮譽に輝きました。彼女のスピーチのテーマは『家族』。昨今の日本の家庭のあり方に視点をしぼり、問題点を取り上げ、今一度、家族の大切さをふりかえることを訴えたものでした。山本さんは1年の時から暗唱の部に出たりして、この大会にはチャレンジしてきましたが、その努力が実って本当に良かったと思います。他の3人も現在の実力は出し切りました。今回の経験を生かして、来年以降のチャレンジへこれからの努力を期待します。

昨年は、3D田邊良君が暗唱の部で優勝し、今年は上記の通り。ますます米子高専の学生が英語に対して関心を持ち、チャレンジしてくれることを祈ります。そうすれば、次期アメリカ大統領オバマ氏の名文句、『Change.Yes,we can』が米子高専にも生まれるでしょう。



## 化学グランドコンテストを終えて

3C 西村 綾華

今回、私達は大阪市立大学で開催された化学グランドコンテストに出場しました。私達は家庭廃棄物から作製した活性炭を用い排水の浄化について取り組みました。夏休みからこのテーマに取り組んできたのですが、初めてのことで失敗や挫折を何度も繰り返し、その度に先生方のアドバイスや文献をもとに試行錯誤してきました。その結果なんとか、予選を通過することができました。本戦ではポスター賞が設けられており、受賞できるようにポスター作製や発表練習に取り組んできたのですが、惜しくも賞を逃してしまいました。しかし、ハイレベルなこの大会の中で他校の人や大学の先生と議論でき、よい経験になりました。また、他校の発表内容や実験手順はとても参考になり得られるものが大きかったと思います。賞を逃してしまっただけが残念でしたが、この経験をいかして頑張っていきたいです。最後にお世話になった友人や先生方、ご協力有難うございました。



## 第2回オープンキャンパスを開催

教務主事補 一般科目 竹内 彰継

11月15日（土）に第2回オープンキャンパスを行いました。これは一昨年度からはじまった行事で、夏の第1回オープンキャンパスでは施設見学という色彩が濃かったのに対し、一般科目や専門学科の体験授業を中心とした一歩踏み込んだ内容となっています。また、今年度は体験授業終了後にクラブ活動を見るキャンパス見学ツアーを行い、各部の部長や代表者にクラブ紹介を行っていただきました。さらに、本科5年生代表による本校の紹介も行い、学生の視点から見た本校の良さもアピールしました。

当日は天候も良く、参加者は中学生が77人、保護者が9人でした。また、オープンキャンパス終了後に行ったアンケート調査の結果、「それぞれの部活を見て、とても楽しそうにやっていて、雰囲気がとてもよかったですと感じました。」とか「とてもやる気が出てきました。高専に入学できるよう頑張ります。」といった多数の肯定的意見をいただきました。



一般科目体験授業



専門学科体験授業



専門学科体験授業



キャンパス見学ツアー(クラブ紹介)



キャンパス見学ツアー(クラブ紹介)



5年生代表学生紹介

## G P 採択について

校長 水島 和夫

このたび米子高専は、文部科学省が公募する二つのG P、「質の高い大学教育推進プログラム（教育G P）」と「社会人学び直しニーズ対応教育推進プログラム（社会人学び直しG P）」に採択されました。前者は、全国の大学、高専が行う教育の質向上につながる取組の中から特に優れたものを選定して支援するもの、後者は、社会人のキャリアアップ等のための優れた取組を支援するものです。今秋から始まった、全学的な取組「中海とともに育てる地域連携型環境教育」と建築学科の「地域特性に配慮し耐震性向上を目指した建築技術者への再教育プログラム」とにより、本校が従来から力を注いできた地域共同教育と地域貢献の一層の充実が進められます。

## G Pとは？

高等専門学校等が実施する教育改革の取組の中から、優れた取組を選び、支援すること。この「優れた取組」を「Good Practice」と呼び、略して「G P」と呼んでいます。



記者発表でG Pについて説明する水島校長

## 社会人学び直しG Pについて

建築学科 玉井 孝幸

この度採択されました「地域特性に配慮し耐震性向上を目指した建築技術者への再教育プログラム」は、耐震診断業務の経験はないが新築建築物の構造設計を行ったことのある建築技術者に向けた事業です。鳥取県と島根県の小中学校の耐震診断終了率は、47都道府県中44位、42位と、耐震診断業務に精通した技術者数の不足が要因の一つだと考えられます。このような社会的背景の中、耐震診断業務に精通した技術者数を増すこと、および早期に耐震診断が終了することを目指したものです。

本事業は、設計方法のみでなく、建物調査から補強工事監理に至る一貫した教育を行うところが特徴であり、専門性の高い業務全体を調整できるスキルをもった構造技術者を育てます。今年度はカリキュラムとテキストの作成を行い、平成21年度10月の開講に向けて準備を進めています。



第1回実施委員会の開催状況

## 教育G Pについて

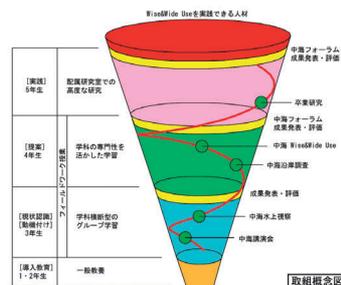
副校長 小田 耕平

地球規模での深刻な環境問題が叫ばれる中、本校においても環境問題を身近な問題として捉えて、持続可能な開発への意識をしっかりとった人材を育てていく必要があります。そこで、環境に関する新たな取組として、身近な自然環境である中海を題材とし、地域とともに中海の環境改善と有効利用を図っていくという教育プログラム「中海とともに育てる地域連携型環境教育」を、全学科3～5年生対象に実施します。

このプログラムは、右図の取組概念図に示すように、学年が上がるごとに「現状認識」→「提案」→「実践」という連続的な取組となっており、3年生では講演会や船上視察で「現状認識」を行い、課題研究として環境保全やWise & Wide Useのアイデアを纏めるグループ学習を行います。4年生では学科の専門性を活かした環境調査の結果を基に、環境保全やWise & Wide Useについての「提案」を行い、さらに5年生では各学科の専門性を活かし、卒業研究として環境保全やWise & Wide Useを実現するための具体的な研究「実践」を行います。

本年度は、3年生の取組である講演会「中海の歴史」、「ラムサール条約」と船上視察（右写真）を早速11月に実施しております。また、火曜日8時限などを利用したグループ学習も行われています。

最後に、取組を通して中海の再生だけに留まらず、地球の一員としての責務が果たせる人材に育っていくことを期待します。



採択した中海のヘドロについて説明を受ける3年生

## 編集後記

毎年この時期には、学生たちが楽しみにしているイベントが盛り沢山です。工場見学、研修旅行、各種コンテスト、そして高専祭。それぞれの目標に向かって頑張っている姿を、多数掲載することができました。

紙面へのご意見・ご感想を、メール（hikona@yonago-k.ac.jp）にてぜひお寄せください。

※記事中において、学科名をアルファベットで表している箇所があります。

M…機械工学科、E…電気情報工学科、D…電子制御工学科、C…物質工学科、A…建築学科、G…一般科目、S…専攻科  
例えば、「1M」は機械工学科1年生を表しています。

発行：米子高専広報委員会

〒683-8502 鳥取県米子市彦名町4448 TEL：0859-24-5023 FAX：0859-24-5029 印刷：(有)米子プリント社  
E-mail：hikona@yonago-k.ac.jp ホームページ：http://www.yonago-k.ac.jp/⇒メニューより「キャンパスライフ」